

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立相生小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- (現4年) 地図記号や四方位の理解が深まってきている。
- (現5年) 社会科見学を通して学習したごみ処理についての理解は定着している。
- (現6年) 自動車工業では、社会科見学などの体験的学習の成果が表れ、目標値よりも7.3ポイント上回ることができた。また、自然環境の学習も定着している。

(2) 課題

- (現4年) 資料の読み取りが不十分であり、写真や資料をもとに判断したり、表現したりする力が十分でない。
- (現5年) 資料をもとに考えたり、資料を活用して判断したりする力が十分ではないため、読み取りや活用能力の力を付ける必要がある。
- (現6年) 年度当初に行った世界や日本の国土については、知識の定着が十分でないため、反復学習や年度末の確認が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	問題全体の校内正答率は、前年度と同じ正答率である。しかし、目標値と比べると、2.3ポイント低い。目標値より正答率が低かった領域は以下の通りである。 【生産や販売】 【安全を守る働き】 【市の様子の移り変わり】 特に「安全を守る働き」の領域は、ほとんどの問題で目標値を下回っている。	問題全体の校内正答率は、前年度よりも、2.1ポイント下がった。目標値と比べると、1.4ポイント低い。目標値より正答率が低かった領域は以下の通りである。 【市の様子】 【買い物調べ】 【安全なくらし-火事】 【市の様子の移り変わり】 特に「市の様子」の領域は、ほとんどの問題で目標値を下回っている。	問題全体の校内正答率は、前年度よりも、8.1ポイント上がった。目標値と比べても、0.5ポイント高い。目標値より正答率が高かった領域は以下の通りである。 【地域や市の様子】 【生産や販売】 目標値より正答率が低かった領域は以下の通りである。 【安全を守る働き】 【市の様子の移り変わり】
第5学年	問題全体の校内正答率は、昨年度に比べて1.4ポイント上がった。しかし、目標値と比べると2ポイント低い。目標値よりも4ポイント以上正答率が低かった領域は以下のとおりである。 【くらしをささえる水】 【先人の働き】 また、目標値よりも4ポイント以上正答率が高かった領域は以下のとおりである。 【特色ある地域の様子】	問題全体の校内正答率は、第4学年時よりも、6.3ポイント下がった。目標値と比べると、1.5ポイント低い。目標値より正答率が低かった領域は以下の通りである。 【都道府県の様子】 【くらしをささえる水】 【自然災害からくらしを守る】 特に「くらしをささえる水」の領域は、ほとんどの問題で目標値を下回っている。	問題全体の校内正答率は、前年度よりも15.6ポイント下がった。目標値と比べても、10.1ポイント低い。目標値より5ポイント以上正答率が低かった領域は以下の通りである。 【都道府県の様子】 【生活環境を支える活動】 【自然災害からくらしを守る活動】 【伝統や文化、先人の働き】 【特色ある地域の様子】

第6学年	問題全体の校内正答率は、昨年度に比べて8ポイント上がった。しかし、目標値と比べると1ポイント低い。目標値よりも4ポイント以上正答率が低かった領域は以下のとおりである。 【世界の中の国土】 また、目標値よりも4ポイント以上正答率が高かった領域は以下のとおりである。 【自動車を作る工業】 【自然環境と国民生活】	問題全体の校内正答率は、第5学年時よりも11.5ポイント上がった。目標値と比べると、6ポイント低い。目標値より5ポイント以上正答率が低かった領域は以下の通りである。 【世界の中の国土】 【日本の国土と人々の暮らし】 【日本の水産業】 【自動車をつくる工業】 【日本の工業生産】 【情報を生かした産業】	問題全体の校内正答率は、前年度よりも4.2ポイント下がった。目標値と比べても、11.5ポイント低い。目標値より5ポイント以上正答率が低かった領域は以下の通りである。 【世界の中の国土】 【日本の水産業】 【日本の食料生産】 【自動車をつくる工業】 【日本の工業生産】 【情報を生かした産業】 【自然環境と国民生活】
------	---	---	---

(2) 分析(観点別)

各問題の正答率や誤答の状態を基に行った分析は、以下の通りである。

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4年 ◎四方位や地図記号についての知識がおおむね定着している。 △火災発生時の連絡体制についての理解が十分でない。 △工場の仕事の行程についての資料の読み取りが十分でない。	4年 ◎写真や資料をもとに判断したり、表現したりすることができている。 △複数の資料を基に考える力が十分でない。	4年 ◎興味・関心をもって調べることができている。 △記述問題に対して、無回答で終わらせている児童が一定数いる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年 ◎伝統的な産業についての基礎的な知識が定着している。 △くらしを支える水やごみの処理と利用の基礎的知識の定着が十分ではない。 6年 ◎工業生産や情報産業についての基礎的な知識が定着している。 △世界や日本の国土の地理的知識の定着が十分ではない。	5年 ◎都道府県の産業について、複数の資料をもとに判断することができる。 △資料をもとに判断したり考えたりする力が十分ではない。 6年 ◎工業や自然環境の資料の読み取りができ、それをもとに考えることができる。 △グラフの読み取りをして判断する力が十分ではない。	5年 ◎世界や国内の産業について、興味関心をもち、予想を立てて調べることができている。 △教科書や資料集に書かれていることを読み取れず、分かったことを書きだすことができない児童が一定数いる。 6年 ◎歴史分野に興味関心をもち、予想を立てて調べることができている。 △歴史分野に比べて政治・経済分野への興味関心が低く、歴史に比べてテストの点数が下がっている。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 教科書・デジタル教材などを日常的に使う機会を増やし、資料を活用する力を育てる。 - 方位、地図記号、地名などの基本事項(クイズ・ICT活用など)を定着させる反復活動を取り入れ、基礎知識のばらつきを減らす。	写真、グラフ、表、地図など複数種類の資料を組み合わせることで読み解かせることで学力の向上を図る。	- 分からないことに対してあきらめずにとり組む姿勢を育てるため、ペアやグループで協力して課題に挑む場面を設定する。 - 無回答や消極的な児童に対し、選択肢型や○×問題などの簡単な問いからスタートさせ、徐々に記述問題に移

		行するステップ型の活動設計を行う。
--	--	-------------------

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・様々な用語の定着に向け、前学年の内容を生かした授業展開を考える。 ・それぞれの単元に関係する前学年の内容を振り返ることで、知識の定着を図る。	・グラフや資料の読み取りをする際、どこに着目するとよいかの視点を指導し、資料から読み取れることを発表したり共有したりして、資料の活用能力を高める。 ・資料をもとに調べたことや分かったことを文章で表現する時間を設ける。	・身近な事象から興味をもたせ、自ら調べたいと思える導入の工夫を売る。 ・資料などからどのようなことが分かるかを個別に声を掛けながら、児童の考えを聞き出し、肯定する。それによって、読み取ったことを書きだすことができるよう支援する。 ・歴史分野において資料の内容や提示の仕方を工夫して児童が自主的・自発的に問題を捉え、興味関心を持たせるようにする。